

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red
Cross Kyushu International College of
Nursing

日本赤十字九州国際看護大学紀要第10号によせて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本赤十字九州国際看護大学 公開日: 2013-01-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 喜多, 悦子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/172

巻頭言

日本赤十字九州国際看護大学紀要 第10号によせて

日本赤十字九州国際看護大学
学長 喜多 悦子

11月10日が世界科学デーというのは、あまり知られていないが、2011年のこの日、世界の国や地域の科学政策の動向をまとめた「UNESCO Science Report 2011」が発行された。1993年創刊以来、5号となる今回は5年ぶりの刊行である。

報告書は、かつての南北間の「研究と開発 (research and development, R&D) 力」の分布は、経済的新興国が変化させたと指摘する。EUとアメリカは、まだ、世界の科学研究をリードしているが日本は退潮気味だ、しかしアジア勢の台頭は著しく、将来は不明だとしている。

科学と技術 (science and technology, S&T) の分野は、これまでEU、日本、アメリカという三本柱 (triad) とそれが支配する世界に二極 (bipolar) 化されていたが、最近、工業・科学・技術分野で力をつけて来た韓国、ブラジル、中国、インドが新たに世界的競争者となったことで、南北をまたぐ公的私的研究拠点が増加し世界は次第に多極化 (multipolar) しているという。直後に訪日した UNESCO 事務局長も、「科学分野で台頭著しい中国ほかアジアを今後注視する」と述べていた。

その中国は、日本の10倍の人口とはいえ、2007年時の研究者数142万3400人は日本の約2倍、EUやアメリカに迫っており、研究開発費の総額はまだ日本には劣るものの2002年から2.5倍 (\$1024億=8兆円強) に増えているそうだ。その所為もあろうが、2006年時でさえ、論文発表数は英国を抜き、アメリカに次ぐ世界第2位という。

本学日本赤十字九州国際看護大学紀要の論文は、数においてどれほど貢献できないかもしれないが、21世紀に必須の学問、人道科学としての看護学として、さらに混沌とする世界の中で人々の安心と安全を保障する保健分野の柱としての看護における質の向上にむけて、さらに世界レベルを目指して努力したい。

UNESCOの報告書では、社会的経済的発展のために、科学が重要だとの認識をもつ政府が世界的に増え、R&Dに関する資金は増え続けている、そのことには勇気付けられるとしている。私たちが置かれている環境とは大いに異なるが、萎縮していてもはじまらない。格調高く、政府にも提言できる evidence-based の成果とともに、将来を見据えた論文をも目指して、本学の若き俊英が研鑽して欲しいと願う。